

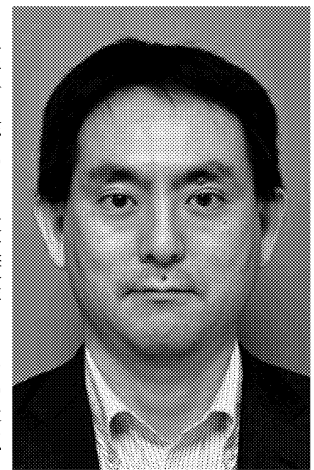
植杉 威一郎

一橋大学教授

ポイント

- 担保・保証人依存の貸し出しに負の側面
- 新興・研究開発型企業に重点提供で効果
- コベナンツが担保・保証人の機能代替も

融資の割合は、16年度平均で13・5%にとどまる。



うえすぎ・いいちろう
69年生まれ。カリフォルニア大サンディエゴ校博士。専門は企業金融

中小企業の競争力 ④ 担保・保証人なき金融模索

土地・建物以外に投資拡大

担保や個人保証に依存しない中小企業金融が広まるには何が必要だろうか。本稿では担保や個人保証を求めない貸し出しを大規模に導入した政府系金融機関の取り組み内容を紹介します。筆者が神戸大学の内田浩史教授、大東文化大学の

分析対象である日本政策金融公庫中小企業事業本部（以下「公庫」）は、比較的規模の大きな中小企業に長期の設備資金や運転資金を貸し出す。16年度中に1・6兆円を貸し出し、6兆円弱の残高を

その後はしばらくは利用が進まなかったが、無担保貸し出しは貸出額の上限を大幅に引き上げた08年8月以降に、無担保貸し出しは経営者保証ガイドラインの適用開始に伴い制度を変更した14年2月前

り入れられない企業は、資金調達がしやすくなる。実際、公庫から借り入れる企業の有形固定資産比率は、制度が導入された08年以降低下しており、担保資産の少ない企業が新たに公庫を利用するようになったことが分かる。

第1に、プラスの効果が大きい先に、重点的に無担保貸し出しを提供することが考えられる。担保を求めない貸し出しには、有形固定資産を持たない企業への貸し出しを増やしたり、担保資産以外への投資を促進したりする効果があることが分かった。不動産を所有していない若い企業や、研究開発やソフトウェアなどの無形資産への投資需要の大きな企業に重点的に提供することで、プラスの効果が大きくなる可能性がある。

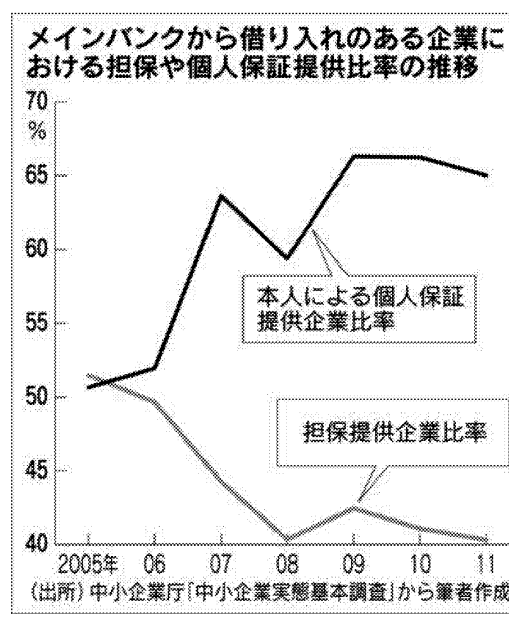
の岩木宏道専任講師、早稲田大学の小倉義明教授と行った無担保や無保証人の貸し出しの効果に係る様々な分析結果を示した上で、新しい手法の将来性を議論する。

後から、それぞれ利用額や件数が急増した。無担保貸し出しは11年度に有担保を件数で上回り、無保証人貸し出しは14年度に貸出総額の3分の1強を占めるに至った。16年度以降は更なる制度変更により、ほぼ全てが無保証人貸し出しとなっている。

もっとも、他の条件が全く同じで担保や個人保証の有無が異なるだけでは、全ての企業が無担保・無保証人貸し出しを選んではしまう。貸出制度の第2の特徴は、金利などそれ以外の条件を変えることで、属性の違う企業が異なる種類の貸し出しを選ぶ点にある。公庫は、無担保貸し出しには有担保よりも高い支払金利を求めており、企業は「無担保、高金利」と「有担保、低金利」という選択肢から貸し出し種類を選ぶ。

それ以降16年3月までは、コベナンツ違反のペナルティは軽くなったが、最も質の高い企業では無保証人と有保証人の貸し出しの金利が等しくなったため、特にこれらの企業で無保証人貸し出しを利用する傾向が強まった。なお、16年度以降は無保証人貸し出しにはコベナンツは付されていない。

担保や個人保証は、長きにわたって中小企業の資金調達を円滑にするために機能してきた。しかしながら、中小企業金融でより効率的な資金の流れをつくるためにも、コベナンツの効果に関する検討も含めて、担保や個人保証に依存しない仕組みを考えることの意義は大きいと思われる。



公庫による貸出制度の第1の特徴は、従来の有担保・有保証人貸し出しに加えて、無担保や無保証人の貸し出しという選択肢を用意し、公庫が貸せるか判断した企業に選ばせている点にある。この措置により、担保になるような不動産を持たず金融機関から借

これらの結果を踏まえ、担保や個人保証を求めない中小企業向けの貸し出しを広めるには何が必要だろうか。

担保や個人保証は、長きにわたって中小企業の資金調達を円滑にするために機能してきた。しかしながら、中小企業金融でより効率的な資金の流れをつくるためにも、コベナンツの効果に関する検討も含めて、担保や個人保証に依存しない仕組みを考えることの意義は大きいと思われる。

担保や個人保証は、長きにわたって中小企業の資金調達を円滑にするために機能してきた。しかしながら、中小企業金融でより効率的な資金の流れをつくるためにも、コベナンツの効果に関する検討も含めて、担保や個人保証に依存しない仕組みを考えることの意義は大きいと思われる。

担保や個人保証は、長きにわたって中小企業の資金調達を円滑にするために機能してきた。しかしながら、中小企業金融でより効率的な資金の流れをつくるためにも、コベナンツの効果に関する検討も含めて、担保や個人保証に依存しない仕組みを考えることの意義は大きいと思われる。

担保や個人保証は、長きにわたって中小企業の資金調達を円滑にするために機能してきた。しかしながら、中小企業金融でより効率的な資金の流れをつくるためにも、コベナンツの効果に関する検討も含めて、担保や個人保証に依存しない仕組みを考えることの意義は大きいと思われる。